

MY BCL LIFE

2004



目次

～プロローグ～

バーチャル書籍からのスタート・・・3

新しい友人・・・3

ペディションを楽しむ・・・4

2004年の宿泊ペディ・・・4

もう一つのペディ記・・・6

2004年のゲリラペディ・・・9

オフ会を楽しむ・・・11

NDXC 訪問・・・11

全国 DXer Meeting 開催・・・15

鎌倉ミニオフ・・・15

意外な人からのメール・・・16

思いがけないプレゼント・・・17

短波と Hz・・・17

NRD-515・・・18

往年の名機のグレードアップ・・・19

ICF-2010・・・19

FRG-7・・・20

2004年のお買い物・・・22

2004年の BCL 書籍・・・23

2004年の DX・・・24

TPDX に魅せられて・・・24

間隙を突いての受信・・・25

短波の DX・・・26

国内民放中波全局のベリ制覇・・・26

2004年の工作・・・27

パーツショップのオヤジさん・・・29

取材が来る・・・29

～エピローグ～

終りに・・・30

表紙写真：S 氏より頂戴した往年の名機 NRD-515

裏表紙写真：K 氏より頂戴したブーム時の雑誌「短波」「Hz」誌の一部

～プロローグ～

【バーチャル書籍からのスタート】

2004年1月1日 - この日に合わせて、私はバーチャル書籍「MY BCL LIFE」を自分のHPにアップした。これはその本文でも書いたが、世の中にBCLについて扱った書籍が消えとて寂しい思いをしていたので、ならば自分で書いてその寂しさを埋めてしまおうという発想から起こした行動であった。全くの自己満足の世界であったが、それでもBCL関連の知人にメールを送ったりHPで宣伝したお陰で、それなりの数の方が読んで下さったようである。

中には印刷して自宅の風呂につかりながら、或いは南極の吹きすさぶ嵐の中で読んでくれた方がおり、また本棚に置いてくれた方などいろいろな方がいた。有難いことだと思つと同時に、私の駄文が読んでくれた方にささやかでも楽しみの時間を提供できたとしたら、望外の喜びである。

本を書いたことは大変面白い経験であったし、またそれをきっかけとして新しいお付き合いが始まったりして、つくづく良かったと思つている。そしてこんな楽しいことは1回だけで終わらせること無く、何回でもやりたいものだ - そう思つて調子に乗ってまたまた書いてしまった。少年時代～2003年の過去の出来事は概ね書いてしまったので、あとは「今」を書くしかない。そこで今回は直近1年間の出来事に限定して書いてみた。題して「MY BCL LIFE2004」である。

たった1年ではあったが、今年も随分とやりたいことをやらせてもらった。何を隠そう私も今年不惑を迎えたのであるが、趣

味のことになるとすっかり少年に戻ってしまう。多分やっている最中は、少女マンガの瞳のように目がキラキラ輝いているに違いない(笑)。それは冗談だが、今年は遊び仲間も増えて一層パワーアップしたような気がする。そんな出来事をいつも書き留めるようにしているのだが、ネタを集めると随分な量になっていた(よーやるよ(笑))。

HP - バーチャル書籍 - これらはいずれも本当に楽しいゲームである。誰もが著者になれるし、誰もが発表の機会を得ることができるのだ。何という幸せな時代か！私にとってこのゲームはたまらなく楽しい！

今年も年度版を元旦に発表し、正月のまったりした時間に酒でも飲みながら読んで頂けることを願つてアップした。もしご覧頂けたなら、ご意見ご感想などをお聞かせ願えたら幸いである。

【新しい友人】

「類は友を呼ぶ」「朱に交われば赤くなる」 - BCLは孤独な趣味に見られることもあるが、やっぱり一人でやるよりも友達とやった方が楽しい。そして友達とやると相乗効果が働いて益々面白くなる。

復活後のBCL活動は、少年時代のそれに比べると孤独ではなかった。ネットのお陰でメール、BBS、チャットを駆使して、いろいろな方々と交流することができたし、オフ会でお目にかかることも時には出来た。しかし2004年には、このオフラインの交流がいきなり増えた。そう、まさに類が友を呼び、朱に交わって赤くなる人々が増殖したのであった。

今年もMWDXの師匠であるT師の他に、技術系の師匠であるS師、更には車で30分ほどの距離のところに住むH氏とは、随分一緒に遊んでもらった。特に7月の茅ヶ崎ペディ以降は、月1回は集まって遊ぶことを目標にして宿泊ペディ、ゲリラペディ、工作会、飲み会と何かしら仕掛けてきた。

上記3氏はレギュラーで遊んで頂くお仲間であるが、今年も随分いろいろな方と知り合ったし、遊んでもらいもした。特に印象に残っている出来事は後ほど詳述するが、NDXC オフ会、鎌倉に家族旅行にみえたK氏と寸暇を惜しんでのオフ会、サイトを訪問頂いたことを機に大切な受信機を頂戴したりと親しくお付き合いさせて頂くことになったS氏、茅ヶ崎ペディに関心を持たれて視察&陣中見舞いにお越し下さったO氏、私の本好きを見込んでこれまた大切な短波/Hz誌を下さったK氏、25年ぶりにお会いしてICF-2010のNarrow化をご指導下さったA氏、そして今年もサークル活動や文集作成に向けて楽しく仕掛けたY氏&I氏、一緒に工作したりペディに行ったりとご近所付き合いをしてもらっているM氏、全国DXer Meetingで交流したB氏/K氏・・・

こう書いていくと読む方は「コイツは遊んでばかりいて、ちゃんと仕事をしているのか？」とか「家庭サービスが疎かになっているのではないか？」と疑われてしまいそうである。釈明させて頂くと、仕事はしっかりやっている。家庭サービスもそれなりにやっているつもりだが、こちらの方はちと怪しい。しかし妻よ娘よ、大目に見ておくれ！あなたの夫が父が元気で楽しく仕事をしていられるのは、趣味が楽しいこともその要因なのだから・・・

S師は「人と会うと刺激を受け、モチベーションが高まる」と仰ったが、全く同感である。来年もこのペースは衰えそうもないし、機会を見つけて人と会い、楽しみも倍加させていきたいと思っている。

【ペディションを楽しむ】

さて、そのオフラインの交流の中で最も活発だったのがペディである。私は「最高の口ケで長逗留する」と言うよりは回転数で稼ぐタイプ(いわゆる安近短)なので、今年だけで7回やった。そのうち宿泊ペディが3回で、残りの4回はS師が「ゲリラペディ」と名付けた日帰りペディであった。

2004年の宿泊ペディ

全て茅ヶ崎で3,7,10月に開催した。いずれもいろいろな方が参加して下さい、それぞれに思い出がある。3月は3人だけで実施したが、DX界の重鎮O氏がお土産を持って視察&陣中見舞いに来場下さった。7月のペディではDX以外でも楽しもうとバーベキューをやってみた。これは美味しかったし楽しかったし、引き続きやりたい企画である。このときは夜半にY氏夫妻も駆けつけてくれて、広くないキャビンが満員になった。今年の夏は暑かったがこの日も例外ではなく、空気の流れの悪いキャビンはまさに酷暑。T氏など熱中症気味でグッ



7/18~19 茅ヶ崎ペディでのバーベキュー
タリする始末である。

しかし3回の中で一番思い出深いペディは10月開催の回である。それは自分自身が非常に厄介な状況に追い込まれながらも開催、参加できた喜びが大きかったからである。当日の日記から拾ってみよう。

『10/10 楽しみにしていた茅ヶ崎ペディを開催。実を言うと今回のペディはあわや中止になるところであった。前日関東地方を直撃した強烈な台風のせいで、我が家が床上浸水の被害に遭うというアクシデントが発生したためである。さすがにイージーな私でも今回ばかりはホイホイ遊びに行く訳にはいかないであろうと思ったのだが、自分が幹事の機能を果たせないとペディが開催できなくなる恐れがあった。しかし中止は何とか避けたいと思い、9日は日付が変わるまで必死に清掃作業を行った。そして概ね復旧の目処が立ち最低限の幹事の役割は遂行できそうだったので、気を遣って中止にしてはと仰って下さった皆さんにお願いしBBQのみ中止にし、ペディそのものは決行して頂くことにした。

機材を持って茅ヶ崎駅で皆さんをピックアップし、会場へと向かう。受付まで済ませて、一応自分の役割を果たし帰宅する。あわよくば夜からでも参加できればと、密かにこの時点から狙っていた。あとは家族の理解だけである。帰宅後も復旧作業を進め、もはや作業のしょうが無い夜になった頃を見計らい、「陣中見舞いに行く」と言い残して家を出る。陣中見舞いならリグなんか持って行くなよという感じであるが(笑)。

30分ほどで着くのが嬉しいところだが、21時の正時のIDに間に合うように家を出る辺りからして策士である(笑)。丁度TPの二次伝搬が始まる時間帯で、1690のスペイ

ン語をキャッチ。この録音は聞いてみないとどこかよく分からない。そして1時間ほどで帰ろうと思っていたのだが・・・何とこの方面がオープンしてしまう。さすがは200mビバレージの威力で、ハワイ/アラスカを中心としてそれこそ10kHzおきにキャリアが取れてしまうのである。このため帰りに帰れなくなってしまった。お陰で以前から狙っていた580kHzKMJを確認した他、680KNBR、1500KUMUのIDなどをクリアに録る。積年の夢1210KZOOはかなり追い詰めたが、今回もIDを取るには至らなかった。

こうして予定時刻を2時間もオーバーして帰宅しようと皆さんに挨拶をして会場を後にするが・・・ここにとんでもない落とし穴が待ち受けていた。キャンプ場の門限に引っ掛かって、車が出せなくなってしまったのである。やむを得ずキャビンに引き返し、驚く皆さんを尻目に、再度リグのセッティングを開始する。もっとも0時では中途半端で、一旦寝るしかない。

目覚めたのは3時前。周辺の緊迫した雰囲気を感じて目が覚め、リグのスイッチをonにする。そう、今まさにユーロ中波のゴールデンタイムが始まろうとしていたのである。1467でバチカンの、1476でオーストリアのISがそれぞれ確認され、興奮は大いに高まる。自分も完全に臨戦体制に入り1611Vatican R.にセットし、3時の正時を待ち受ける。そして・・・お馴染みのあの荘厳なISが聞こえたのである！初めてヨーロッパからの中波を捉えた瞬間である。この他録音しただけでIDは未確認ながら1377ではフランスらしき局がかなり強力に聞こえる。新潟ではR.SwedenのISが確

認されたとの情報も入り、今日はまさにコ
ー口中波デーになったことを実感する。

チャンスタイムは本当に短い。4 時前には国内民放局がキャリアオンとなり、多くの局がその信号に呑み込まれていく。なんとも口惜しく残念な限りである。そこでやむなくここで受信を打ち切り、開門時刻までしばしの睡眠となる。6 時半過ぎには開門を確認し、片付けも出来ずに去る非礼をお詫びしつつ、現地を後にする。



我ながら随分無茶をしたものだが、そこ
までしても行きたかったペディであった。
そして電波の神様が、その期待に十分応え
るリターンをくれたことは本当にラッキー
であった。本当にやって良かったペディシ
ョンであった。今回もご一緒頂いた皆さん、
それからネットや電話を通じてリアルタイ
ムな情報交換をして下さった他地区の
DXer/ペディメンバーの皆さんに改めて感
謝申し上げる次第である(なげー日記だ)。」

ついでに当日の様子を S 師がコミカルに
描写してくれた「もうひとつのペディ記」
も掲載しておきたい。まあ多分に楽屋オチ
のところはあるが、秀逸な文章をメンバー
だけでシェアするのも勿体無く、師に許諾
頂いて転載するものである。

『-もう一つのペディ記-』

1 『嵐の後の騒ぎ』

「ぜひやりましょう、S さん。床上浸水
したといっても 2 回目でもう慣れてますから」台風 22 号の大雨で自宅が浸水被害にあ
った naka さんから早口の電話があった。

「でも床上浸水ですよ。後始末が大変じ
ゃないんですか？それに一回目は 28 年前
らしいじゃないですか。慣れてるはずない
でしょう(苦笑)。電車も動くかどうか分か
らないし、そもそも現地の状況がどうなっ
てるかわからんでしょう？」

「東海道線は動いていることを確認してま
す。現地も朝一で電話しましたが、全く問
題無いそうです」「今、行くと奥さんに叱ら
れますよ。それこそ血の雨で床上浸水にな
りませんか？ ホント大丈夫なんです
か？」「さすがに今日は行けません(キッパ
リ)。世帯主としての資質を問われます。で
も出迎えと機材運びはやりますので、ぜひ
やってください！」

nakanaka あきらめない...親父ギャグは
ともかく、メーリングリストのやりとりで
ほぼ中止を決定していたところ、なんと
naka さんはメンバーに電話をかけまくり、
説得(各個撃破)に当たったらしい。まっ
たくすごい執念である。

結局、naka さんの思いと気迫が勝り、急
転直下、茅ヶ崎ペディは 3 時間遅れで開催
することとなった。「こうなったら責任上、
本人にも来てもらわんといかんあ～」

台風一過の秋晴れに期待し、「雨男」を返
上したかった某氏は少し早めに到着した茅
ヶ崎駅で曇り空を眺めながらつぶやいた。

2 『教え子との再会』

Toku さん、Shin さんも到着し、駅前のロータリに駐車している naka さんの車に向かった。車の前に先客がいた。naka さんが機材を積もうと後部のドアを開けたところ、naka さんにその中の女性が声をかけてきた。「あれえ ひょっとして 先生(引用者注:私の本名)ではありませんか?」

「??? (しゃっちょこっばって)どっ、どちら様でしょうか?」「私ですよ。中学一年の時の生徒だったですよ....」

「???....ゲッーッ!!」「お久しぶりです。先生、全然変わってませんねえ」

さん!? いやぁ~立派になって!」

そばに旦那のいる人妻を捕まえて「立派になって!」はないんじゃないか(笑)

naka さんの話によれば、その人妻は 29 歳。naka さんがその昔中学で技術家庭の教師をしていた頃の教え子だったらしい。そのころ中学一年だから 13 歳。となると 16 年ぶりの再会となる。こんなことあるんですねえ~

「naka さん、その頃から変わっていないらしいですね」「そうなんですよ~皆から全然変わらないと言われてます」全然変わらないのもすごいと思うが、技術家庭の先生だったということも相当すごいと思うな。

3 『naka さん帰宅。でも話題の中心』

ペディ会場で一通りのアンテナセッティングを終え聞き始めた。アンテナと分配器を接続したところ、東向きビバレージの信号が弱い。激弱である。おかしいなあということで Toku さんと問題点の切り分けを始める。分配器を通さずアンテナを直接接続する。ガ - - ンと信号が強くなる。こり

や分配器があやしい。元技術家庭の先生が作った分配器である。(36 ポイント)

こんなこともあろうかと、念のために置いて帰ってもらった naka さんの工具が「案の定」役立つときがきた。蓋をあけて子細を点検する。二カ所のイモハンダと二カ所のリード線断線が原因だった。直すと正常になった。

Toku さんが修理の風景を笑いながら、おニューのデジカメで撮影する。ペディでハンダゴテを握るのを初めて見ましたよ(笑)私は毎回コテを握っているような気がする...



懸命に 4 分配器を修理する S 師

4 『再登場』

すっかり夜になった。途中参加の紳士な M さんが来た。一同拍手で迎える。T さんが K さんの掲示板の DX 情報をケータイから書き込む。「ハンドル何にしましょうか?」「うーん....『茅ヶ崎 4 分配器直し隊』にでもしたら!」なんとも投げやりでベタなハンドルだ。一同爆笑。

夜、九時前に naka さんがやって来た。「あれえ~来ない予定だったのではないの?」実はワッチ中に悪いヤツが naka さんに何回か電話していた。「いやぁ~今日はコンデ

イションがいいなあ〜」とか「爆裂！爆裂！」などの言葉に過剰反応したらしく、奥様には「陣中見舞い」と称して出て来たらしい。やっとフルメンバーとなった。

これから楽しみですね〜と思う間もなく、naka さんはいくつかの局の ID をゲットした。さすが策士である。正時に合わせて来るとは...

予想以上に二次伝搬の TP が好調だったため、長居となった naka さん。そろそろ帰る時間である。ここでまた悪い仲間が声をかける。「これだけ TP の二次伝搬が好調だと、これからも期待できそうですねえ！」「これなら深夜早朝に期待できますねえ」「ヨーロッパも聞こえるんじゃないですか？ねらっているバチ中もきくと聞こえますよ！」「なあ〜に、奥さんが寝ている間に帰ればいいんですよ。朝戻って奥さんが起きてきたら、『今起きたところだよ。これから朝食を作るからね！』とやればバッチリですよ！！」一同、好き勝手なことを言う。なにがバッチリか分からないし、帰らざるを得ないのに後ろ髪だけでなく前髪を引くやつがいる。帰りたくないなあ〜聞いていたいなあ〜と名残惜しそうに帰宅の途につく naka さんだった。

またメンバーがかけたなあ〜(ヒッソリ)。二次伝搬も終了し、深夜早朝の欧州中波に備えて仮眠に入ったとき、「こんばんはあ〜」と、声が聞こえた。7月にお世話になった追い出し上手な管理人の手下かと思ったが、なんと naka さんだった。なんで戻ってきたのぉ？

「いや、ゲートが閉まっただけ...知恵の輪のようで云々...で帰れませんでした」...意味不明。

よくよく聞いてみると、キャンプ場の敷地内に駐車したが、表のゲートが閉じられており、ゲートに巻かれた鎖が知恵の輪のようになっていたため、それが解けず、外に出られなかったのも、やむなく引き返してきたのである。

普通なら悲壮な顔になるのだが、心なしかうれしそうに見えるのは気のせいではないだろう。これで心おきなく DX に専念できるようになった naka さん。晴れやかな表情で受信機に向かっていたが、他のメンバーは心配顔である。(単に眠たいだけかもしれない)「naka さん、家を放っておいて大丈夫だろうか？奥さんに叱られないかな？」不安は的中する...

5 『こわいメール』

夜が明けた。夕べからの雨がしとしと降っていた。「また降ってる」某雨男氏が嘆いた。撤収が大変になる。実はこれを書いている今日、すでにペディから4日も経っているのだが雨が続けている。雨男がつぶやく。「なんでこんなに雨がふるのかなあ」雨男の妻が決めつける。「そりゃあお父さんが茅ヶ崎に出かけたからよ」「...」心の中が床上浸水になりそうなので先を続ける。

つい2、3時間前までの喧噪は去り、そろそろ皆、短時間の眠りから起き出してきた。そんな中、naka さんが妙にそわそわしている。「皆さん、すみません、すみません。すぐ家に帰らなきゃいけないので、撤収はお手伝いできません。すみませんが、よろしくお願いします」naka さんは風のように去って行った。

実はこれには訳があった。naka さん、ゲートが閉められて自宅に帰られないことを

メールで奥さんに知らせていた。こんな時、メールは便利である。直接、話せないこともメールなら書ける。面と向かって罵倒されることもない。「これこれこうで帰れません。すみません」ほどなく奥様から返信があった。「信じられない...」グワァーーン！一瞬のうちに目が覚める。血の気が引く。冷や汗が出る。信じられないというのは、帰らなかったことが信じられないのか？世帯主の資質が無いからか？それとも日頃の行いか？いや全部かもしれない。

経験者はわかる。このたった6文字のメールの中には深い意味が隠されているのだ。これはまずい！ムチャクチャまずい！そわそわするはずだ。早く帰らなければいけない。

その日、nakaさんの近所に住む人は、かいがいしく、精力的に自宅の周りを掃除したり、物を運ぶnakaさんの姿を目撃したはずである。

世帯主はたいへんなんだよ。

終わり』

2004年のゲリラペディ

モバイルワッチと称して車の中で聞いていたところから発展し、外に出てレジャーテーブルを置いたり、果てにはテントを張って中で聞いたり、段々本格化していった。会場も最初は河川敷などが中心であったが、T師が三浦半島に絶好の場所を開拓してくれてからは、すっかりそちらにシフトしていった。場所は半島の先端に当たる雨崎というところで、海の目の前の少し開けたところである。当日の日記にはこのように記されている。

『9/18 楽しみにしていたS師・T師とのモバイルワッチを敢行。場所は三浦半島の先端に近い雨崎というところで、海の目の前の隠れた(?)観光地である。事前にT師が近隣を視察してくれて、TP方面に開けた良いところとの推薦であったのでこの地に決定した。現地に向かう道中でお二人を順次ピックアップし、コンビニで食料を調達し、若干余裕を持って現地入り。現地に近づいて広がる海に向かって開けた広々とした段々畑の光景に、S師など「ここでアンテナ張りたい！」と大興奮し、期待感是否応なしに高まる。海の目の前というのは、もうそれだけで何か期待させてくれるものなのである。

実際に到着した現地も、事前の情報に違わぬ良いところであった。本当に海の真前で、電波を遮る障害物やノイズ源になりそうなものが何も無い。しかしDXerのロケーションに対する欲望は底知れないものがある(笑)。念のためにとそのすぐ隣の小高くなったところや、少し離れた灯台の横(過去2回実績がある)も視察。ただこの界限はいずれも道路がめちゃくちゃ狭い。地元農家の人々はそれが指定であるかの如く一様に四駆の軽トラに乗っているが、私の車は大きめなので車幅一杯いっぱい走りにくいことこの上ない。ギャップで落輪したり、もの凄く狭いところで方向転換を余儀なくされて泣く泣くハンドルを切ったりとえらい目に遭う(涙)。そうした視察の結果、総合的に見てやはり予定の場所が良いということに落ち着きそちらに向かう。しかし途中立ち寄った高台には、太平洋戦争時に使われた(と近くの畑にいたおばあち

ゃんが言っていた)砲台の跡があったりして、思わぬ歴史の勉強までしてしまう。

さて会場はワイヤー系の長いアンテナを張るにはちょっと難しい地形であり、本日は K9AY を使用する。TP 方面に照準を合わせてセッティングし 17 時前にはセットを完了。そして受信機のスイッチを入れると・・・素晴らしい!ノイズが無いのだ!また K9AY アンテナの性能もこれまた素晴らしい。指向性の鋭さには驚愕の一語に尽きるが、例えば 567kHz など北に向けると NHK 札幌が聞こえているが、これを南向きに切り替えると瞬時に Guam の KGUM に入れ替わるといった具合である。

好ロケと FB なアンテナのお陰で、早くも 1700kHz のメキシコ XEPE が弱いながらも聞こえている。そして 18 時くらいから一次伝搬が本格化し、あちこちのチャンネルで TP 局が聞こえまくる。3 人は歓声を上げながら、狂喜しつつこの状態を楽しむ。面白かったところでは 580kHz という低い周波数で聞こえた英語局、1170 でのスペイン語局など普段は聞けないチャンネルでの DX 局の入感。この他 1660 でもスペイン語が入感するが、調べてみるとそこには「NJ」州の局がリストされている。NJ はなじみの無い州名なのですぐにピンと来ずちょっと考えて New Jersey と分かり「すわ、W コールか!」と色めき立つが、冷静になってそれはあり得ないだろうと笑う。

そんな感じで聴きつつ喋りつつ、途中 S 師にコーヒーを入れてもらったりしつつ(実に便利なものを沢山持って来ていた) 22 時まで 6 時間近くその地でワッチする。海風がもの凄く強く寒かったりもしたが、楽しんだのはワッチだけではない。空を見

上げると決して都会では見る事の出来ない満天の星(天の川まで見えた)海を見ればゆっくりと行き交う沢山の船、そして対岸に見える房総の夜景・・・車をほんの少し走らせてただけで、こんなに非日常の世界に出会うことができたのも嬉しいことであった。



コンディショナルには決して良くなかったというのが共通見解であったが、それでもこれだけ楽しめたのはモバイルワッチならではであろう。雨男 S 師の存在にも関わらず、天候に恵まれたのもラッキーであった(笑)。一同大いに満足し撤収を済ませ、現地を後にする。』

『11/6 折角の DX シーズンなのだから好ロケーションで頻繁に聞こうと好き者が集まり、「極寒ゲリラペディ」と称して日帰りペディを開催。今回は好き者が 1 名増えて 4 名に(笑)。会場は 9 月にも行って素晴らしい場所と絶賛した三浦半島の雨崎である。昼過ぎに S 師、H 氏と 3 人で集まって現地へ。S 師は現地入りするやいなや、いきなり前回も感動していた海に向かって開けた段々畑の光景のパノラマ撮影を始める。余程嬉しかったものと思われる(笑)。

今回は周囲に人が殆どいなかったのも、海岸線に沿ってビバレージアンテナを張る。

長さとしては150mくらいだが、マストや低い木を立ててそこに引掛けてセットする。この長いアンテナが功を奏して、なかなかゲインがあってFBである。15時過ぎにセッティングを終了し早速試し聞きすると、早くもあちこちでTP局が聞こえ出す。中でも良好だったのはカナダ方面。IDが取れたのは980のCKNWだけだったが、明らかにカナダと思われる局が、普段自宅では決して聞くことの出来ない周波数

(730CHMJ: Sports Radioのアナウンスが出ていた、1320CHMB: 中国語が聞こえていた、960CFAC)で聞こえていた。この他アラスカ方面も良好で沢山の波で聞こえていたが、例えば最強の850KICYはSメータでS9を超えており非常にFBだった。しかしこの一次伝搬の好調ぶりも長くは続かない。信号強度は間もなく落ちて逆に空電が目立ち始め、何回もIDゲットのチャンスを阻まれた。

20時前に仕事帰りのT師が到着。これでオールメンバーが揃って二次伝搬ワッチにチャレンジ。ただここで良好だったのは1600以上のX-Bandくらいのもので、後はパツとしない。相変わらず空電に悩まされる。



今回のMy firstは上記CKNWのと1030KTWOの2局で(後に730CHMJもコンファームされる)自分的には満足である。残念ながら自分以外のお3方はDX的な成果は無かったようだが、喋ったり食べたり、そしてワッチの合間には星を観察したりして楽しんでおられたようである。「極寒」の期待は良い意味で裏切られ、日が落ちるまでTシャツでいられたほど暖かい日であった。来月もまたやる予定だが(ホント好き者!)次回こそ極寒になるかもしれない。次回は500mビバレージを張って大いに珍局を狙おうと約束して、22時過ぎに終了。撤収して現地を後にする。』

このように神奈川県と言えども、それなりにDXを楽しめるものである。ここで聞けるレベルの局は聞き尽くしてしまい、ロケの限界に至ったらもっと遠くで本格的な逗留をしてみたいと思っている。

【オフ会を楽しむ】

ペディ以外でもとりあえず会って飲んだり食べたりしながら話す会は何回も催した。遠方の方とは出張、旅行などの機会を捉えて積極的に出会いする機会を設けた。お陰で今年もいろいろな方に会えた。そんな想い出を、ここでいくつか拾ってみたい。

NDXC 訪問

2004年5月2日。私は少年時代からの夢をまたひとつ実現した。それはNDXC(名古屋DXersサークル)を訪問することである。

ブーム当時を知る方には説明の必要もないと思うが、NDXCは我が国DX界の最高峰に位置する、ハイレベルなDXer集団であった。有力DXerが何故名古屋地区に集

まっていたのかは分からない。いや、全国各地にハイレベルな DXer は「点」在した筈である。しかしその「点」が「線」「面」になった例は全国でも非常に少ない。しかもその「面」が 30 年近く続いているのは、名古屋のみと言ってよい。その秘訣を考えるに、何人かの傑出した情熱を持った DXer が、類稀なるアクティビティで周囲を引っ張ったからではないかと推察する次第である。

少年時代の自分も、NDXC に大いに憧れたし、そんな有力 DXer の指導の下でミーティング、ペディションなどの活動ができる同年代の BCL をたまらなく羨ましく思った。そう思ったのは私だけではない筈である。恐らく当時の少年 BCL の多くが、NDXC に憧れを抱いたのではないだろうか。そして自分も NDXC に参加したかった。

しかし中学生がたかだか趣味の集まりで名古屋まで行くことを許される訳もなく、夢が夢のままで終わってしまった人が殆どであろう。夏のペディくらいは参加のチャンスもあったかもしれないが、夏休みと言えども部活もあったし、なかなか難しかったのが実情である。

それだけに復活してから「いつかは NDXC」と夢を持ち続けていた。そんな夢が実現するチャンスが訪れたのは、知人 DXerHo 氏に「オフ会をやるのですが来ませんか？」と誘って頂いた 4 月のことであった。考えてみると今の時代は、自分にとっては都合の良い時代であるとも言える。要因は 2 つ：ネットの普及と DXer の数の減少である。ネットがなければ Ho 氏をはじめとした NDXC の方々との交流もなかったであろう。自分自身 HP を公開してい

たことと、何人かの方と時々ではあるがメール等でやり取りさせて頂いていたので、多少なりとも係わり合いができていたことは幸いなことであった。同様に DXer の数がブーム当時のように多かったら、これまたお声など掛けて頂けなかったであろう。自分など別段特色がある訳ではないので、大勢の中の一人に過ぎない。それでも今の時代は DXer は天然記念物である。全国どこに住んでいても、少ない仲間を大切にしようという気持ちになるものなのだろう。いずれにしても誘って頂いて本当に嬉しく、せっかくの GW だし必ず行こうと瞬間的に心に決めていたのであった。

さて行くと決心してルートを考え始めると、名古屋は決して遠いところではないと気が付く。新横浜～名古屋は新幹線のぞみ or ひかりでノンストップで 1 時間 30 分を切るのである。私の家から新横浜までは電車だと乗り換えが 2 回あって面倒だが、バイクで行けば 30 分強で着いてしまうので、名古屋～会場までの所要時間を入れても 3 時間掛からないのである。これなら（交通費は別にして）時間の問題だけであればいともたやすく参加できる訳である。そう考えるとますます名古屋は近く感じられた。したがって当日は 12 時過ぎに自宅を出ればよかったので、午前中はプールに泳ぎに行った上、髪の毛を切りに行く余裕まであった。

こうして 15 時過ぎに国府宮駅に着くと S 氏が車で迎えに来て下さっていて、会場まで向かう。会場は着いてみてやっと分かったが、メンバーの知人の方が、ご自宅をこのために開放して下さっているとのことであった。しかもこの知人の方は DX とは全

く無関係なのである。場所の確保については同様の企画をやると思うと最大の問題になるだけに、驚くやら羨ましいやらであった。到着時点では ALA-1530 を 2 台設置の準備をしていた。そう、このオフ会はただ飲んで騒ぐだけではなく、ちゃんと受信もできるのである。しかも今回の趣向が凄いい。「ICOM IC-R9000 を複数台集めてワッチする」というものである。とても他地区では考えられない、豪快な企画である。当日はこの他 AR-7030 が 4 台、IC-R75、NRD-515、CRF-1、SONY の大昔の BCL ラジオ（型番？）、9R-59DS が各 1 台設置されたが、私の目は中でも 9R-59DS に釘付けであった。というかゲストとしてお邪魔した私を歓迎する意味もあって、私が以前から憧れていたこのマシンを準備して下さったとお聞きした。このマシンは本当に DX のための特別仕様であり、フィルタは切れが良く、また驚いたことにフロントパネルの左上の部分が切り抜かれ、ここにデジタル周波数カウンタが埋め込まれていた。このカウンタはどこかで見たことがあるなと思っていたらその通りで、昔の RF-2600 のカウンタを流用したとのことであった。いずれにしても 9R-59DS でワッチするのは初めてのことであり、これまた大いに感動モノであった。ハム音がして微妙な DX にはちと厳しいが、それでも 18 時にはオーストラリアの 4QN が良好であり、正時の ABC ニュースのテーマ音楽が軽快に聞こえていた。9R-59DS での私の DX 初受信である。



さてメンバーだが、これまた豪華かつバラエティに富んだ方々が集結していた。その昔から短波誌で活躍された OM 氏を筆頭に全 12 名で、別段儀式ばった挨拶もなく宴は自然に始まった。飲むも良し、聞くも良しで、皆宴会場と仮設シャックを行ったり来たりしながら、文字通り自由にこのゴージャスな大人の時間を存分に楽しんでいた。自分も初参加とはいえながらも、そのフレンドリーな雰囲気ですっかりリラックスして楽しませて頂いた。趣味が同じであれば年齢も関係ない。DX という共通言語でいろいろな方と楽しく語らう。そう、やっぱりこの日はワッチはプラスアルファであって、やはり徹底的に語る方に回った。

その中で特に印象に残ったのは A 氏の「報道の裏を読む」というお話と、Ha 氏の「旧 B 連創設時の経緯」のお話であった。前者については最近海外で起きた事件を紐解いて、メディアが真実を隠しているが真実はこうだという見解を語っておられ、大変面白かった。自分も報道を鵜呑みにしていたがどこかおかしいと思っていただけに、真実は A 氏の見解の通りであろうと真剣に聞き入ってしまった。

後者については何故そんな話になったのか忘れてしまったが、こちらも大変面白かった。少年時代は不思議に思わなかったことも、社会人として 10 数年も仕事をしていると何故？と思うことが沢山あった。氏のお話はその疑問に実に明確に答えてくれて

いた。「なるほど、そうだったのか！」と思うことだらけであり、これまた聞き入ってしまった。恐らく Ha 氏や当時の関係者しか知らないこともあったと思われ、これが聞けたことも貴重な体験であった。詳細はここに記す訳にはいかないが、JSWC50 年誌ではないが日本の BCL 界の歴史として、記録として残しておくべきもののように思う。



さてこの日はとにかく寝るのが勿体無く、2 時半まで起きていた。もっとも興奮してなかなか眠くならなかったというのもあるが…。月曜早朝なので通常ならば中波も停波する日だが、この日は GW のため渋滞情報で停まらないようだったので、その後起きていても意味はなさそうだった。そこで一旦リクライニングソファに腰掛けて毛布を掛けて寝入った。

7 時過ぎに目が覚めたのでラジオを聞いてみるが、時は既にアフリカにも遅く大したところは聞けない。7 時で思い出すのは RAI くらいなので、WRTH で周波数を調べ、昔懐かしい NRD-515 で聞いた。そして聞くところもなくなり撤収を開始し、宴会場、シャック、アンテナを片付ける。その後朝食をご馳走になりながら、ネット運営に関するディスカッションになる。部外者でも

あるので黙って聞いていたが、なかなか白熱した議論である。しかし白熱はしても、既に信頼関係が十分に出来上がっているから何の心配もないのであろう。この辺りも真似できない伝統と歴史の強さを感じた。

こうして会場を提供して下さった K 氏に何度もお礼を言ってその場をあとにし、次に今回は参加できなかった I 氏のお宅にお邪魔する。I 氏は短波誌でインドネシアのパートで活躍なさった、元インドネシア屋の自分にとっての憧れの方。自分が BCL を復活した際も、未だ続けておられることをご自身の HP で知って、大変懐かしく思ったものである。そんな氏は私が HP を立ち上げた際にはメールを下さって、そこから初めてお付き合い頂けるようになったのである。ヘッドフォンセレクターの作り方や NRD-535 のメモリ管理用ソフトウェアの件などいろいろとお世話になっている。今回も事前に挨拶メールを送ったところ、I 氏からお借りしたアンテナを返す車に乗便していらっしやいとお声掛け頂いて、お言葉に甘えてお邪魔することになったのである。

I 氏はネットでのお付き合いで伺えるそのままの、誠実な人柄の方であった。驚くのは何と言ってもそのシャックが整然としていることである。自分も散らかっているのは嫌いなので整頓はしているつもりだが、レベルが全く違う。リグが規則正しく配置され、部屋にはチリーつ落ちていない。4 人でお邪魔したのでゆっくり話もできなかったが、顔を拝見し一言二言言葉を交わしたらそれで十分満足できてしまった気がした。しかし I 氏は私を喜ばせようと、「ちゃんと置いてありますよ」と書籍「MY BCL

LIFE」を印刷したものをを見せて下さった。以前メールで「印字しましたよ」とお聞きしていたがその通りだったので、非常に嬉しかった。

I 氏宅を辞した後はつかの間であるが G 氏との語らい。G 氏もかつて短波誌で活躍された中波 DXer であり、ネットで知り合えた後に何度かメールでやり取りをさせて頂いた。一度などは酔った勢いで不躰にも MWDX についての質問をメールで送りつけるなどしたこともあった。氏に対する私の印象はバランスの取れた大人の人の人というものであった。これもネットでのやり取りで持ったものであったが、やはり実際にお会いしてもその印象は裏切られることはない。リアルな会話でも随所にそれを実感した。15 分ほどの時間を惜しむように BCL について語った。そして名古屋の駅で挨拶をして完全に一人になって新幹線に乗り込んで、名古屋の地を後にした。

憧れの NDXC 訪問は、その期待を裏切られることはなかった。期待以上の楽しさと思い出を頂いて、家路につくことが出来た。少年時代の夢は、今や完全に実現されたことを感じる。素晴らしい皆さんと素晴らしい時が過ぎて本当に幸せである。幹事でありまた今回お誘い下さった H 氏、会場を提供し何から何までお世話下さった K 氏、他 NDXC の皆様に心からの謝意を表す。

全国 DXer Meeting 開催

『6/7 九州の B 氏上京に合わせて歓迎オフを開催。この日は偶然にも大阪の K 氏も出張で東京にお見えになったのでお誘いし、関東からは自分も含め 3 名が参加して、さながら「全国 DXer ミーティング」の様

相を呈する。B 氏はスーパーアクティブな DXer で、いつも情報を頂いて懇意にして頂いている。K 氏は「短波」時代にアフリカ方面で活躍なさった有名人。茶目っ気でサインを頂いたりする(笑)。



いつもそうなのだが、オンラインで会話を交わして写真も拝見していると、初めて会った気がしないのは不思議である。いずれもオンラインでのお付き合い同様楽しい面々であり、時間はあっという間に過ぎていく。商用で中座せざるを得なかった K 氏と、これまた仕事が長引いて途中参加の T 氏が 15 分差で会えなかったのは残念であった。こんな草の根オフ会を繰り返しながら、いつか本当に「全国 DXer ミーティング」が開催できればいいなと、酔っ払った頭で考えていた。』

鎌倉ミニオフ

『8/28 今日には名古屋から旅行で鎌倉にお見えになった K 氏と、いつもの T 師と 3 人でのミニオフ会。チャット等では時々 3 人で一緒になることもあるが、K 氏とお目にかかるのは T 師も私も初めてである。折角近くまで来るからとお声掛け頂いて、今回の会が実現した。鎌倉の海岸に受信しに行くという企画を考えても良かったが(まるで短波の連載マンガ「リグ・ログ・ラグ」の元旦由比ガ浜ペディみたいだ(笑))、時間

もあまりなくまた K 氏も長旅でお疲れに違いなかったので、大人しく語るオフにする。



そして K 氏宿泊のホテルの喫茶店で、1 時間半ほど取りとめも無い話をする。音声を使ったチャットの経験もあるので、やはり初対面という気はしない。しかしこのように家族サービスのわずかな隙をついて、なかなか会えない人と会うというのは、合理的でとても良いことだと思う。これは大いに見習おうと思った次第である(笑)。」

【意外な人からのメール】

HP を開き「ご意見ご感想を」などと書いてみると、時折思いもよらない方からメールを頂けることがあってなかなか面白い。というか現在の BCL 系の交友関係のかなりの部分はこうして作られてきたのであるが。今年もいろいろな方からメールを頂戴したのだが、その中でも特に印象に残ったのは次のお三方であった。

まずは「神様」。ブーム時のファンで「神様」というニックネームという「ああ、あの方か！」と分かってしまうと思うが、そう、その方なのである。少年 BCL 期には、まさに雲の上の人だった方である。まあ考えてみればトップ DXer とは言え、趣味を離れればフツーのおじさんである(笑)。後日

お目にかかって話した時に「ブーム当時 BCL の集いで、少年 BCL からサインを求められて当惑した」と苦笑なさっていたが、その少年の気持ちは良く分かる。自分だって未だにそういう思いがある。そんな方にも HP を見て頂けたのかと思うと光栄であったし、近しく話をさせて頂けるようになったことを大変幸せに感じた。

2 人目は「女性」である。この趣味に関連して女性の方と関わるのは全く初めてのことであった。それだけにとっても新鮮で、大きな驚きを持って受け留めた。同年代でブームを知っている方のようなただだけに、感慨深いものがある。Hz 誌を読み返すといくつかのミーティングには YL さんが参加されていたようであり、大変華やいだものを感じる。そうしたものを期待して BCL をやっている訳ではないが、何となく羨ましく感じるのは事実である。いずれにしても新鮮な体験であった。

最後はなんと南極からのメールである。「MY BCL LIFE」を印字して、プリザーブドで立ち往生している時に読んで下さったとのこと。懐かしく興味深く読ませてもらった旨のメールを頂いて、ある種の感慨に浸ったのも事実である。



F 氏が送って下さった南極オーロラの光景

勿論電子メールは世界を飛び回るものなので何の不思議もないのだが、それでもそんな遠くから届くと嬉しい。こうして広がっていくネットでのお付き合いであるが、次のステップとして私が密かに考えているのは、海外のメール友達である。国内の付き合いすら満足に出来ていないのに海外とはとも言えるが、私の DX のターゲット - 北米、オーストラリアの人とは特に情報交換という観点から交流してみたいのである。時間もないし手間もかかりそうだが、必ずいつかやるつもりだ。そしてまた国内外を問わず、オフで会える人がもっとも増えることを楽しみにしている。

【思いがけないプレゼント】

勿論そういったものを期待して付き合っている訳ではないが、今年は思いもよらぬ凄いプレゼントを続けて頂いてしまった。「短波」「Hz」と「NRD-515」である。いずれも人生の大先輩より頂戴した。

短波と Hz

雑誌類を下さったのは BCL 関連の著作もお持ちの K 氏で、私もその著書は持っていた。D 氏の仲介でお近づきになることが出来た。読者の一人として知り合えて、大変嬉しかったのだが、K 氏はお近づきの印といった感じで、氏の著書をサイン入りで贈って下さったのであった。そこで私も返礼とばかりに、「MY BCL LIFE」を印刷してサインを入れて贈らせて頂いた(笑)。それは半分チャレだが・・・

しかしそんな私の熱中ぶりに何かを感じて頂けたのかも知れない。丁度氏のご自宅の改築に伴い上記雑誌の置き場所がないとのことで、貰ってはくれまいかというお言

葉をかけて頂いたのであった。もう驚くやら嬉しいやらで、その週は仕事も疎かになりかねない感じであった。

『1/18 今日 BCL を始めてから最高と言って良い、嬉しい出来事があった。それは「短波」誌をはじめとした、BCL 雑誌・書籍を頂戴したことである！本日某氏のお宅にお邪魔して、「短波」「Hz」「My Wave」「WRTH」を大量に頂いた。同氏とはメールでは何回かやり取りさせて頂いていたが、実際にお目にかかったことはない。そんな数回のやり取りの中で、私の BCL 書籍に対する思い入れが強いのを認めて下さったのか、今回よんどころ無い事情で手放さざるを得なくなった書籍を、「良かったら引き取ってくれないか」とお声掛け下さったのである。お話を頂戴したのが今週初めだったがそのせいで仕事も手につかず、今日も夢見心地で車を飛ばす(笑)。頂きものもさることながら、実は同氏にお会いできること自体が大きな楽しみであった。宅配便で送って頂くのではなく、差し支えなければ頂きに伺いたいと申し出たのもそういう理由である。はやったせいか随分早く着いてしまう(笑)。そして直近より電話をして迎えに来て頂きご自宅に行き、ダンボールに詰まった宝物を受け取る。お取り込み中とのことでご挨拶と短時間の立ち話だけでゆっくりお話しすることはできなかったが、まずはお目にかかれて嬉しかった。また改めて機会を頂戴したいものである。

ところで頂戴した短波は全 89 号のうち 4 号が欠けただけで、何と 85 冊が揃っていた。Hz も大半はあった。もう何とお礼を申し上げていいのかわからないほど感激している。まさに家宝である。この宝の山の中から今

日でも使えるノウハウ等を発見したら、皆さんにもお伝えしたいと考えている。まずは我が書棚に並んだ、この壮観な光景をご覧頂きたい。』



NRD-515

NRD-515 も、まだメールで 2 回しかしたことのない S 氏より頂戴した。515 と言えば中学時代に知っていた中では最高級の受信機で、大変高価な高嶺の花であった。それだけに嬉しいが流石に当惑もしたが、大切なものを次世代の BCL が引き継いだような心境で頂戴することになった。

『10/16 「10/13 ある方から凄い内容のメールを頂戴した。」について、現実のものとなったのでご報告する。その答えは、下記掲載の写真をご覧頂きたい~そう、何と往年の名機=憧れのリグ、NRD-515 を頂戴したのである！下さったのは大先輩 S 氏である。S 氏とはまだメールのやり取りを 2~3 回させて頂いただけで、もちろんまだお目にかかったことすらない。それなのに私などにこんなに大事なものを下さるとは嬉しさは言うまでも無いが、見込まれて(?)お預かりする責任も痛感する。そう、頂戴したのではあるが、BCL にとって共有の財産を同世代を代表してお預かりしているような、何かそんな思いもしているのだ。

送って下さるとのことであったが、幸いにも車で行ける距離にお住まいだったので、車を走らせて挨拶がてら頂戴しに伺う。

1 時間強で S 氏宅に到着。既にお茶を準備して下さっており、暖かい歓待を受ける。大先輩とは言え、趣味が同じだとすぐに打ち解けられるのが嬉しい。そう、BCL は共通言語なのだ。盛り上がって話をするとすぐに時間が経ってしまう。その後シャックにご案内頂き、実際の 515 をお見せ頂きながら、本機固有の使い方についてご説明頂く。そして愛車に積み込み、有難く頂戴して帰ってきた。



早速自宅でセッティングし中波などを聞いてみると、メキシコの 1700kHzXEPE が良好に入感。7030/535 と聞き比べてみるが、遜色を感じない良好さである。これなら TP オープン時の複数波ワッチ用に十分使えそうな気がする。有難く頂戴し、大切にに使わせて頂きたいと思う。

雑誌も受信機も大切にしてくれるであろうと見込まれて頂いた宝物なので、生涯大事に使わせて頂くことを固くお約束する次第である。』

【往年の名機のグレードアップ】

この辺まで来ると、もう殆どマニアの領域であろう。往年のポータブルの名機 ICF-2001D(2010)と通信型受信機 FRG-7 - これらが持つポテンシャルを最大限発揮させようという試みである。

ICF-2010

まず ICF-2010 だが、ポータブル機とは言え、その実力は相当なものである。その一世代前の通信型受信機に匹敵する性能を持っていると思うし、実際この受信機をフルに活用して LADX にも対応していたという話も聞く。私もそういった神話に感銘を受け、主に旅行時の DX マシンとして活用したいと思い、課題である選択度の改良に着手することにした。この改造にはその昔 FRG-7 の Narrow 化で使用した LF-C2A というセラミックフィルタを、ある OM さんより譲って頂き、同じ 2010 のオーナーである DXer 仲間の U 氏を巻き込んで、一緒に改造することにした。しかし U 氏も自分も実際にはどう改造したらよいかは分からなかったのも、技術に強い A 氏のご指導を願うことになった。A 氏は、実は私が 25 年前に FRG-7 を Narrow 化した際にご指導下さった方その人なのである。

『2/1 本日 25 年ぶりにある OM 氏にお会いする。以前からやりたいと思っていた ICF-2010 の Narrow 化のご指導を仰ぎにご自宅まで訪ねたのである。この方は名前を言えばどなたでも知っている有名な DXer であり、更に言えば 25 年前に FRG-7 の同じく Narrow 化のご指導を下された方である。私自身はそれっきりお目にかかる機会がなかったのだが、知人 DXer U 氏が OM 氏と交流があり、仲介して頂いてご一

緒にお邪魔することになった。U 氏も 2010 を所有しておられて、私がフィルタを 2 個購入したので一緒にやりませんかとお誘いしたのであった。

四半世紀ぶりに会う OM 氏は・・・やはり変わっていた。それは中学生だった自分がいいおっさんになったのと同じことであるが(笑)。「ご無沙汰しております。」と挨拶するが、事実上初対面のようなものである。自分的にはちょっとした感慨を胸に、早速ご指導を仰ぎ始める。



実際には自分の分はご指導ではなく全てやっしてもらってしまった。U 氏はそれを見ながら自分でやることになる(笑)。まあ本当は自分でやった方がためになるのだが。OM 氏はいくつかの回路図や写真を元に現行のフィルタがどれであるかを発見し、またどのようにして改造するかを構想を練る。そして結論的には既存の Narrow フィルタは取り外さず、Wide フィルタのプリントパターンを切断し、そこに追加フィルタを挿入する。これなら一旦フィルタを外す必要がなく、最小限の作業で目的が達成できる。また何か不具合が生じれば、切り離れたパターンをジャンパすれば元に戻せるのである。このあたりの実作業に入るまでの考え方というのは非常に参考になる。

作業は2時間ほどで無事終了し、その後は雑談となる。OM氏は昔からそうだったかと思うが、非常にスケールの大きい方である。ここでは詳しく書けないが氏の考える様々な構想をお聞かせ頂き、U氏も私も話の内容に大変驚く。しかし同氏ならきっと実現してしまうのだろうと確信する。自分のマニアぶりなどまだまだひよっこに思ってしまうほど、同氏の姿勢には徹底したものがある。

自宅に帰って早速 Super Narrow 化した 2010 で聞いてみる。このフィルタは FRG-7 改造で使ったフィルタと同じなので (LF-C2A。±1.5kHz/6dB ± 4kHz/50dB) その実力の程は承知しているがやはり切れが良い。

2010 は基本的に自宅でのサブ用、そして旅行用として使用しているが、これで 2010 でも DX らしきことが出来そうである。せっかくの 2010 なのでフルに活用してみようと思う。まずは OM 氏ならびにお付き合い下さった U 氏に厚くお礼申し上げる次第である。』

Narrow 化したものの、まだ肝心の旅行に行く機会がなく、折角の tune up もまだ宝の持ち腐れ状態であり、本領発揮はこれからといった状態である。

FRG-7

もう一台のグレードアップは FRG-7 のデジタル化の改造であった。火をつけたのは今年 1 月に読んだ Dialkid 氏の HP であった。氏がその日記の中で、「デジタル周波数カウンタの自作を研究している」と書いておられたのを読んで、自分の中に「あ、自分も作りたい!」という気持ちが芽生えているのを感じた。

今でこそちょっと気の利いたラジオは全てデジタル表示だが(マイカーのラジオでさえデジタル)その昔は手探り受信であった。自分の原体験としてこれがあるので、直読への憧れは激しいものがあった。一番の憧れは YAESU の FR-101DD であったが当時 18 万円であり、これは買えるはずもない。その後メインダイヤル+スプレッドダイヤルの組み合わせにより、アナログで 10kHz まで読めるようになった(1975 年スカイセンサー 5900)ことは画期的なことであり、自分もそれに飛びついた 1 人である。しかしその 2 年後にプロシード 2800 で 1kHz 直読デジタル表示が登場して、その優位性はあっさり崩れてしまったのであるが。

プロシードは自分の買える範囲の現実的なデジタル機であり、或いは最も憧れた受信機だったかも知れないということは以前も書いた。買える範囲とは言っても買えるのは 1 台なのだから、総合力で選ばざるを得ず、結果 2 台目のリグとして選ばれたのが FRG-7 なのであった。残念ながらこれは 10kHz 直読のアナログ機であった。もちろん別途マーカーとかカウンタを買えばよいのだが、そんな物を買うくらいならもっとお金を貯めてデジタル機を買っていたであろう。そんな訳で中学時代の BCL はデジタルとは無縁のままで終わったのだった。

こうした「満たされなかった経験が、その後の行動を左右する」ことはよくある。メインリグを 2 台有している今、カウンタが必要かということと必然性は無い。そしてその必然性のないものを敢えて作って FRG-7 につけてやろうというのは贅沢以外の何ものでもない。合理的な理由はない。ただ作

りたい、そして満たされなかった欲望を満たしてやりたいだけである。

さて Dialkid 氏のプランに共鳴したは良いが、氏自身が早くも暗礁に乗り上げていた。自作で必要となる IC が、もう世の中に存在しないそうなのである。もっとも自分の場合、仮に IC があっても基板の作成でつまづきそうだが。秋葉原の秋月にキットがあったが、運悪く品切れでいつ再入荷するかが分からない状況であった。

そんな感じで八方ふさがりかなと思っていたら、ある日新展開が訪れた。ある BBS で、今尚販売されているデジタル周波数カウンタのキットが紹介されていたのを発見したのである。早速ネットで調べてみると確かに複数のタイプが売られていた。Kid 氏に報告がてら「どれがいいでしょうかね」などと相談する。氏はその存在を知って喜んでおられて「液晶タイプは味気ないので、LED タイプの方が雰囲気があって良いでしょう」というコメントを下さった。唯一心配なのは我が FRG-7 がワドレーループという特殊な回路構成の受信機であること。確かその昔は周波数カウンタも、ワドレーに対応しているかいないかというのを明示して販売していた記憶がある。そこでこのキットのメーカーに対応するかどうか尋ねるが、メーカー自身は FRG-7 を知らないの明確な回答を得られない。しかし HP の説明書きを読む範囲では対応しそうな気がする。まあ何とかなるだろうと高をくくって注文してしまうのがアバウトな自分らしいが(笑)。

届いて早速作り始める。ワドレーループはダウンカウンタになるので、その点だけ注意しながら工作を進める。IC の半田付け

を始めとして細かい作業が多いので慎重に行う。ケースは丁度良いのを買ってきて加工するが、LED がのぞく四角い穴を開けなければならないので、ついにハンドニブラを購入する。初めてにしてはまあまあきれいに開けられたのではないだろうか。

さてここまで来て暗雲が立ち込めてきた。このカウンタは「中間周波数が一定でないといけない」ということが判明したのである(つーか、今頃判明するなつーの(笑))。我が FRG-7 はこれが可変である。ということは使えないのか… まあ FRG-7 でダメならクーガ 115 につけるかなどと思っていたら、ここで DXerK 氏より有難いアドバイスを頂戴した。それは「100kHz 以下の桁の表示であれば問題ないのではないか」という内容であった。確かに、MHz 単位までは自分で合わせる機構なので、その下の桁だけが表示できれば実用上何の問題もないのである。それをそっくりそのままメーカーに返すと、「それならば大丈夫」との回答であった。確かに大昔のカウンタも同じように 100kHz 以下の桁だけを表示するタイプのものもあった。この問題もクリアでほっとした。

カウンタが完成した後の作業は FRG-7 からの出力である。「ピックアッププローブ」というのを作って、これに 12V を供給してやらなければならない。また FRG-7 の筐体に穴を開けて BNC コネクタをつけるのだが、きれいに開けられるのか心配したが、こちらは意外とあっさり開けることができた。

カウンタ、信号の出力作業が完成し、これで動作すれば問題なかったのだが、残念ながらどこかで失敗したようで動作しなか

った。その時点ではカウンタが悪いのか、局発からの出力に失敗しているのか、或いは両方とも失敗しているのか判断がつかなかった。しかしながらカウンタが意味不明な数字（文字）を表示していることから、少なくともカウンタはダメそうである。配線をチェックしたが、間違っている箇所は分からなかった。そこでしばらくしてから意を決して、メーカーの方にメールを送り、実費で修理して頂けないかと相談してみる。

するとメーカーの方は送料を負担してくれるれば、特にあとはいらないと仰ってくれた。しかしさすがにそれも悪いので、いつかは手に入れるだろうと思っている

9R-59D のためにもう 1 台あっても良いと思いい注文する。そうしてカウンターは修理されて無事帰ってきた。

そこでいざセットしてスイッチを入れるが・・・あれ、やはりダメだ。局発からの出力も誤っていたようである。間違っていたのは出力の地点か、ピックアップ回路か、或いはそれへの給電か？結局自分ではチェックできず、今度はハードに強い知人 DXer の S 師にすぎることになった。ただ師も忙しくまたそんなに近所に住んでいる訳ではないので、そうやすやすとは教わるチャンスは見つからない。結局快諾頂いてから実際にチェックを頂いたのは、2 ヶ月後のことであった。

このチェックでは 2 箇所の誤りが発見された。1 つはピックアップ回路への給電のポイント。全然関係ないところから電気を取ろうとしていた。もう 1 つはピックアップ回路に使われている FET の向きの間違い。というか確認も何もせずに作っていて、

私のデタラメ・アバウトぶりには S 師も呆れて苦笑しておられた（笑）。

さてその部分を修理してもらって、いざスイッチオン。すると見事成功！ダイヤルの動きに連動して周波数表示が変わる。やった！FRG-7 は購入から 25 年の歳月を経て、ついに 1kHz 直読のマシンに変身したのであった。多くの方の善意の協力がなければ完成できなかったであろう。ここで改めてお礼を申し上げたい。



せっかく直読機になったのだから、この受信機が使える限りいろんな局を聞いてみたいと思っている。

【2004 年のお買い物】

今年はあまりものを買うということにはなかったが、それでも以前から欲しかったものをいくつか購入した。

受信機では昔懐かしい Drake の SSR-1 を入手した。リグのコレクションは一旦中断していたのだが、機会があれば手に入れたと思っていた 1 台がこれだったのである。こちらは某氏の Web サイトを訪問した際に、「会社の上司が所有していて手放しても良いと言っている」という記述を拝見して、アプローチしたのであった。同氏に仲

介して頂いて、SSR-1は無事 My Shack の1台となったのであった。



MIZUHO のオーディオプロセッサ AP-M1 はオークションを覗いていて何となく購入した。「何となく購入した」というだけあって実際に使用することもなく（使い方さえ知らない！）シャックのオブジェと化している(笑)。

こちらは買い物ではなく戴き物だが、クーガ 2200 の相棒、アンテナカップラー RD-9810 は親愛なる T 師より頂戴した。早速 2200 の隣りに置いてやったが、やっぱりこの2台はつがいになっている光景が良く似合う。ただこちらはまだ活用するに至っていないが・・・（そもそも 2200 で DX をする機会がない）。

こちらも戴き物になるが、忘れてはならないのは、M 氏から頂戴した BCL ラジオのフィギュアである。今年結構（ほんの一部のオジサンの間で）流行ったのでご記憶の方も多いと思うが、氏はこれに相当額の投資をなさったようで、私はそのおこぼれにあやかっただけである。

このフィギュアは実に秀逸で、ボタンを押すと何と、今は懐かしい「オールナイトニッポン」の各種ジングルが流れるという

しくみになっている。まさにオヤジキラーと言える趣向である。



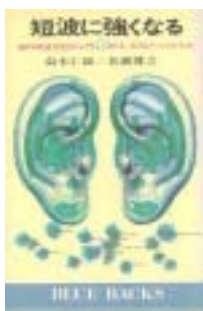
クーガ 2200/115 の2台は今でも、シャックの中の楽しいオブジェになっており、次女は My Shack に来るたびに、このボタンを押して帰って行く

【2004 年の BCL 書籍】

BCL 系の書籍は眺めているだけで幸せな気分になれるし、なんともいえないノスタルジーに浸れる。そこで今年も機会があればネット、古本屋、そして知人から戴きものをしたりして、数が増えていった。

ゴージャスなのはやはり「BCL マニュアル」だ。分厚くそしてカラーページも豊富で、流石にブーム全盛期の本であると言える。「BCL マガジン」も同様である。「短波に強くなる」という本も入手したが、これはなかなか学術的で、受信機の構成、電波の伝搬などが詳述されている。理論的裏付けの薄い私などは(笑)、しっかり読むべき良書であると思われる。

戴きものとしては KDXC 会報「Call Sign」と、特別刊行物がある。これらは N 師より頂戴したものだが、80~90 年代が空白の自分にとっては非常に新鮮で、とても貴重である。



考えてみると、83年7月に短波誌が実質廃刊になり、同年11月に旧日本BCL連盟が解散した時点で、当時のBCLは交流/連絡の手段を断たれてしまったのだろう。現代のようにネットがあれば何とかなっただろうが、抛り所を失って難民化してしまったのであろう。そうした中 Call Sign は BCLの最後の砦の1つになったのではないだろうか。

もうひとつ、書籍ではないが、I.S集のCDを入手した。これはI氏にお願いして頂戴したもので、元々はmp3形式のものであった。そこでこれをいつでも聞けるようにwav形式に変換し、CD-RとMDにダビングして、車の中や或いはポータブルMDプレーヤーで通勤電車の中で聞いたりもした。なかなか趣深いものであった。

この他にもまだ入手して読んでみたい書籍があるので、来年も少しずつ探していきたい。

【2004年のDX】

今年に入ってからMWDX志向に拍車がかかってきて、本当に短波を聞かなくなってきた。それまでは中波は7030で、短波は535で使い分けて聞いていたのだが、短波を余り聞かなくなったので、535も使用頻度が減ってしまった。短波はインドネシアもアフリカもどんどん受信対象が減ってきて寂しくなってきたのに対して、中波はまだまだ無尽蔵に対象があるからでもある。

TPDXに魅せられて

MWDXの中心はTP(Trans Pacific=北米中波)である。やはり今一番魅力を感じるのがここである。何故TPDXにこんなに魅力を感じるのか？1つには意外と受信チャンスが多いからである。その理由は周波数セパレーションの違いにその秘密がある。日本や近隣諸国の9kHzセパと異なり北米では10kHzセパのため、9割はクリアチャンネルになるからである。周波数が1kHzでもずれていれば、受信チャンスは全く比較にならないほど大きいからである。基本それ以外の地域はクリアチャンネルが殆どないので、国内局が停波する時を狙うしかなく、チャンスは非常に限定される。それに比べてTP局は思った以上にチャンスが多いのである。

それから言語が英語であること。中にはスペイン語の局もあるが、確認しやすくかつつきやすいのである。時間帯も良い。夕方の一次伝搬は休日でないといけないが、二次伝搬は22時とかそれ以降になることが多いので、残業しても間に合うことが多いのである。返信も率は高くないが、それでもポツポツと来ることは張り合いがある。

しかし何といても TPDX の最大の魅力は、太平洋を越えた遠方から、よりよって中波の信号が日本まで飛んでくるというロマンにある。確かに簡単ではないが、チャンスはしばしばやってくる。そしてペディに行くとそのチャンスは飛躍的に増大するので、頻繁に行くことになった訳である。

間隙を突いての受信

TP 以外はクリアチャンネルになる確率は低い。月曜早朝に民放が停まる時と、NHK 第 2 が深夜帯が停まるのを除くと、なかなかチャンスは訪れない。特に難敵は NHK 第 1 である。ここは原則 24 時間 365 日休まないからだ。しかしそんな中でも極わずかながらチャンスはある。それは機器メンテナンス時に停波する時である。ただしその日時を、余裕をもって知ることは出来ない。せいぜい前日に、日刊スポーツの HP で見られるくらいである。

そこで私は不躰にも、NHK にメールを送り、「DX をやりたいのですが、いつ停まるのか教えて下さい」などと失礼な質問した。情報公開の意識が徹底してきたのか、NHK は律儀に回答を寄越してくれたものである(笑)。どうせなら停波の年間計画を HP にアップしてくれていると嬉しいのだが(現に盛岡放送局はアップしている)。

さてそんな少ないチャンスにおいて、今年は 2 度の DX チャンスに恵まれた。594 の東京第 1 と 729 の名古屋第 1 の停波に遭遇したのであった。594 停波を体験したのは初めてだったので驚いた。やった！という喜びで、受信機にかじりついた。聞こえていたのはフィリピン語。恐らくマニラの DZBB と思われる。なかなか ID が出ず、さあ、3:00 に ID 出ないかと待ち構えたの

だが、非情にも 3:00 の時報とともに NHK がキャリアオンしてしまい、夢は瞬間的に潰えた(涙)。

名古屋は 2 回ほど停波に遭遇したが、うち 1 回は英語がクリアに入っていた。これはオーストラリア、Adelaide の 5RN であった。ローカル番組ではなかったが”Radio National”のアナウンスは取れたのでレポートを送ったところ、無事ペリをゲットすることが出来た。



この 2 例だけ見ても、NHK 第 1/KBS が、MWDX の最大の障害(NHK/KBS の方失礼!)になっていることが分かる。現代の MWDXer は、何とも苛酷な環境に置かれているのである。FM ラジオ網もこれだけ普及してきたのだから、今更中波に固執せず FM にシフトしてくれても、また 24h 放送しなくても良いのではないかと(費用対効果も考えて欲しいものである。一体世の中の何割がラジオ深夜便を徹夜で聞くのだろうか?)。民放も含めて、本当に 24h 放送が必要なかどうかを、再検討して欲しいものである(勝手な言い分か?)

短波の DX

短波についてはすっかり疎くなってしまった。そんな中でも知人から情報を頂いて受信した局の中で印象に残っているのは、**Bhutan** と **EMR** の 2 局である

Bhutan は少年時代の自分には珍局中の珍局として記憶に残る局であった。ハムバンドの真中にあるわ、出力は小さいわでとても受信できるものではないと当時は思ったが、その後周波数も変わりかなり聞き易くなったようであった。

今回も受信が容易になった時点で情報を頂戴し、簡単に受信できたのであった。大変有難い限りだが、やはり珍局受信は情報だと痛感する。

EMR はその名の通り、ヨーロッパの音楽局～そして海賊局である。こちらの情報は **Super Active DXer B** 氏より頂戴した。当日は **B** 氏の他数人と、**BBS** で情報交換しながら電波を追いかけたという点でも、なかなか面白く記憶の残る受信となった。

【国内民放中波全局のベリ制覇】

日本の民放中波局は全部で 47 局であるが、以前にこの全局を受信したところまでは書いた。今回はその全局のベリを取得したので、記念にここで書いてみたい。

受信したときに書いた随想でも触れたが、そもそもは自宅（神奈川県）で聞こえにくい中波局を聞いてみたいと思って、琉球放送を聞いたのが出発点であった。そこから「果たして全ての民放局が受信できるのだろうか？」と全局受信を狙い出した。そして受信できると、放送は全て日本語だから内容は分かる訳なので、ついついレポートも書きたくなる。そこで琉球放送、ラジオ

沖縄を皮切りに、難関であった九州カルテット（長崎、大分、宮崎、熊本）も無事受信をして、どんどんベリをゲットしていった。こうして集まってくると、どうせなら全局揃えたいと思うのが人情である。集め方としては遠く（難易度の高いところ）から順番に集めていった。そして段々楽な方に近づいてきて、少しずつ揃っていった。本来ならもっと早く集められたのだろうが、難易度の高いところを終えてしまうとその後はいつでもできるという気になり、なかなか終わらせることが出来なかった

首都圏の 4 局（ニッポン、TBS、文化、アールエフラジオ日本）などはそれこそ物心ついた頃から聞いたラジオ放送であり、全くもって今更ジローの世界であった。改めて受信レポートを書くなど気恥ずかしい気持ちさえあったが、それでも制覇のために一番最後の方に回してこちらもゲットしていった。

ところで 47 局のうち、自分がコレクションを始めた段階ではベリを発行していない局が 2 局だけあった。静岡放送と福井放送である。福井は混信が多くあまり良好な受信は出来ないが、静岡はクリアなだけに、この 2 局が集められないのは残念であった。ところが待てば海路の日和ありである。ある時 **K** 氏の **BBS** に書き込まれた **T** 氏の情報により、静岡放送は 2004 年春から（？）発行を再開したことを知った。そこで静岡は程なくゲット。福井は同じく **T** 氏の情報として、カードは無いが、レターで実質的な確認をしてもらえろという情報を得た。そこでこちらにもチャレンジしようと、レポートを送る。



福井放送より届いた「実質」ベリレーター(笑)

そうして福井からも写真のようなレターを頂戴し、無事 47 のチャレンジは終了した。質素なレターであっても受信確認証としての価値にかわりは無く、「当社では受信確認証は発行しておりませんので・・・」などと謙遜せずに「これが当社の確認証です！」と言い切って欲しい気がするが(笑)。それにしてもさすがに日本の局はサービスも素晴らしく、返信が来ない局は 1 局もなかった。そのあたりも、日頃折角 DX 局を受信してレポートを出しても返信が一向に来ずストレスを溜めていた私にとっては、常に一服の清涼剤として働いてくれたように感じている。

いずれにしてもこれでベースとなるべき局のベリを集め終えたので、次のステップ(海外で得ていない局へのレポート提出)を積極的に進めていけそうである。新たな旅立ちに乾杯!

【2004 年の工作】

今年も色々としてみたい気持ちが燃え上がり、沢山のものを作った。作ったというのもおこがましく、実際には色々な方に助けて頂いてやっと出来たというのが本当のところである。特にいつも敗戦処理なら

ぬ配線処理を引き受けて下さっている、大魔人佐々木こと S 師には全く頭が上がらない。この場をお借りして、一年分のお礼を改めて申し上げる次第である。

まずはアンテナを今年も作った。最初はフェライトバーアンテナ 2 種だったが、これは自宅というよりは旅行、ゲリラペディで使うことを念頭において作った。ひとつ目は 3D 無線クラブさんバージョンのもので、フェライトバー 1 本で作るもの。こちらは余り重くないので、昔の製作雑誌ではないがタッパウェアをケースにしてみた。一応出来たのだが、同調範囲が中波帯に完全にはフィットしておらず、もう少々試行錯誤が必要のようである。

もう 1 種は S 師バージョン。こちらはフェライトバー 4 本を接着剤で固めて太くした、そしてケースも防塵・防水型を用いた本格的なもの。部品を揃えてバーを 4 本接着した後、約一年間凍結していたものである(笑)。重い腰を上げて一気に作り上げたのだが、非常にゲインは低いし同調範囲も合っていない。ゲインはさほど高くないと聞いていたのでこんなものかと思ったが、それにしても低過ぎる。その頃はまだ S 師とも今ほど懇意ではなく遠慮して言い出せなかったのだが(昨今では遠慮のかけらすらなく、図々しくお願いしまくっている)、このままではダメだと思い Give up しチェックをお願いしたのであった。S 師は親切にチェックして、不良箇所を修正の上返送して下さいました。こうして海外局も聞こえるようなパフォーマンスを出すに至ったのであった。



フェライトバーアンテナ S 師バージョン

ループアンテナは K さんバージョンを 2 種作った。K 氏のご自身の HP に詳細な作り方をアップしてくださっているのだが、実体配線図入りだととても親しみやすく（簡単そうに見える）ついつい作りたくなってしまふのである。1 号機は何故か上手く動作せずメチャクチャ焦ったが、1 箇所つまらないところを間違えていたことが判明し、事なきを得た。このチェックの過程では作品をデジカメで撮影し K 氏に送り、それをチェックしてアドバイスしてもらうという方法を取ったが、何とも便利で有難い方法だとつくづく感謝したものである。そして勢いに乗って、その改造バージョンである 2 号機も作成した。



LOOP5

アンテナ付属機器としては、アンテナセレクトとフェイズシフターを作成した。セレクトは以前ロータリースイッチで作ったがイマイチな気もしていたので、S 師の真似をしてプッシュスイッチで作る事にした。空いている（アンテナをつないでいない）コネクタでは 51 の抵抗につながるようになっている。こちらは部品の入手に手間取った他、単純な割には工作に時間がかかった。しかし完成するとなかなか FB で、大変気に入っている。



アンテナ切替器

フェイズシフターは N 師のご厚意により、特殊なフェライトコアを入手できたことで製作に入ることが出来た。今回は慎重に作ったつもりだったが、実際に使ってみると上手く動かない。そこでまたまた S 師の登場である。S 師のドックに入り、師からは入力と出力が繋がっていないという全く根本的な問題の他数点を指摘され修理して頂き、無事使えるようになった。



Phase Shift Unit

このフェイズシフターには後日談がある。ナル調整の実験の際に ALA-1530 ループを2分配したものをアンテナ 1/2 にそれぞれ入力し、そして 612 を使いロシアの R.VBC と NHK 福岡を反転させようとしたことである。「出来ないんですけど」と S 師に相談したところ「当たり前です！2本の別なアンテナをつながなきゃダメなんです！（あんたそんなことも知らずにやってたのか・・・）」と叱られてしまった(笑)。

こうした工作をするに当たっての今年の進化は、やはり S 師のご指導に尽きる。8月に FRG-7 デジタル化プロジェクト実施の際に来宅頂いた際に、様々なノウハウを伝授頂いた効果は大きかった。そしてその秘伝を元に様々な工具を揃えて、作業効率と精度は飛躍的に向上した。

メカに強い DXer は永遠の憧れである。これからも色々とチャレンジして、失敗成功を繰り返しながら知識と技能を向上させて行きたいと思っている。

パーツショップのオヤジさん

工作のための部品は秋葉原で購入するが、ここでも面白い出来事があった。某パーツ屋のオヤジさんと言葉を交わす間柄になったことである。

『7/23 いつも通う秋葉原のパーツ屋のオヤジさんと話をする。先日立ち寄った時に「久しぶりですね」と声を掛けられて驚いた。慌しく数点のパーツを買ってそそくさと帰ってしまうだけなので、まさか顔を覚えてもらっていたとは思っていなかったからである。この日も「(工作は)うまくいってますか?」と声を掛けられる。そこで自分もすっかり嬉しくなって、親し気に話をさせてもらう。実はこの店、自分が中学

生のときにアンテナカップラーを作るために、殆ど初めて訪れたパーツショップなのである。同じビルの B1 にあったトヨムラでエアダックスコイルを買った後、他のパーツについて尋ねると、「うちにはないけど 3F の 無線に行けばあります」と教えてもらって行ったのがこの店だったのだ。その時は本当に全く何も分からなかったのだが、いろいろと親切に教えてもらって必要な部品を揃えられたという思い出があった。そんな思い出話を自分からするとオヤジさんも驚いて、「25年前ですか！同じような人が今では自分の子供を連れていらっやいますよ。」と応えてくれる。そんな会話をしばしの間交わしながら、必要部品を購入して去る。これまでただ通うだけだった秋葉原で新たな人間関係が生まれ、別な意味で訪れる楽しみが増えた。』

【取材が来る】

こんな風にやりたい放題やってそれを HP に書いていると、時にはマスコミ系の人も見てくれるようである。昔ならこういうクレージーも少なくなかっただろうが、昨今ではこの種の間人も貴重なのかも知れない(笑)。実は2件のインタビューがあった。

うち1件は「日経ゼロワン」という雑誌で、こちらは実際に雑誌に掲載された。「ラジオ」が特集されており、リスナーという立場で取り上げたいというので、BCL を世間に知ってもらいたいきっかけになればと思い快諾した。カラー1ページで扱ってくれたし、概ね喋った通りに書いてくれたように思う。堅気の衆を巻き込んでいきたいという自分の意図からすれば、是非とも自分の HP の URL を掲載して欲しいところで

あったが・・・案の定、この記事を見てアプローチしてくれた方は残念ながら一人もいなかった。



日経ゼロワンに掲載された私のインタビュー記事

も楽しい時間が沢山作れることを、心より願っている。

もう1件は実現はしなかったが、某TV局の番組制作会社であった。こちらのリクエストは、南極の電波を受信して、ペリをゲットする過程をルポしたいという趣旨であったが、それはすぐには期待に応えられないとの判断で、実現はしなかった。

「BCLにもっと光を！」が私の願いなので、これからもご要請があれば喜んでお受けしていきたいと思っている。来たれ、マスコミの皆様よ(笑)!

～エピローグ～

【終りに】

さすがに1年間だけの内容なので、初版(60ページ)に比べると少ないが、それでもこれだけ書くことがあったか考えると、結構驚きである。本文でも少し触れたが、趣味は私のエネルギー源である。仕事も大切だが、楽しい趣味の時間があるからこそ、仕事の時間は集中できるのだと思っている。

だから来年も趣味の時間は、自分で取れるだけ取ろうと思っている。時間など本当にやりたければ、何とか捻くり出してしまうだろう。来年も待っているであろう数々の出会いと楽しみ。そしてやりたいことを躊躇なくドンドンやっていくこと……。来年

MY BCL LIFE 2004

2005年1月1日発行

著者：Naka

1964年神奈川県生まれ。現在も在住。1975～80年にBCLに熱中するも、高校進学とともにリタイア。20年のブランクを経て2000年復活。2004年1月にバーチャル書籍「MY BCL LIFE」を発行。2004年も更にヒートアップしてBCL活動に取り組み、このようなクレージーな年鑑^{アニュアルレポート}を刊行するに至る(笑)。妻1人と2女がいる。

謝辞：S師『もう一つのペディ記』リライトの上のご寄稿に感謝致します。

